

うんな中学校校歌完成

かねてより、作詞を宮沢和史氏、作曲を佐渡山安信氏に制作依頼していた校歌が完成しました。
『琉歌の里』恩納村らしい、5つの詩からなる琉歌調の校歌となっています。曲につきましては、役場ロビー、中学校総合推進室のホームページにて視聴することができます。ぜひ拝聴ください。

作詞者：宮沢和史氏より

現在の子供達を思うのはもちろんのことですが、僕は50年後、100年後の恩納村の子供達のことをイメージしています。

このままの体制で沖縄が続くならば、多分島言葉を使う人々、機会は今よりもさらに少なくなっていると推測します。しかし、島言葉の美しさを残しておきたい。そう願うばかりです。

日常会話がたとえ共通語になったとしても、歌や芸能の中には島言葉や琉歌が残ってほしいと願います。

ですから、共通語、日本の文学性に寄り過ぎず、かといって未来の子供達が理解できないような色濃い島言葉にも寄り過ぎない両者の中間くらいの表現方法にしています。

他県の人も見れば理解できるが、琉歌の文学性なるべく多く取り込み、歌の中に残しておきたい…。という願いがこの歌詞のベースとなっています。

作曲者：佐渡山安信氏より

音域は中学生が歌いやすい音域にしてあり、旋律は沖縄の雰囲気を出すことで、琉歌を身近に感じてほしいと思います。曲全体は、力強さよりも優しさと思の堅固さを前面に意識して作曲しています。

現在編曲中のオーケストレーションには、三線もいれ琉歌の里の雰囲気作りをし、新生「うんな中学校」の生徒や村民に喜んでいただける校歌にしたいと考えています。

『うんな中学校校歌』

一、赤間丘立ちて 恩納岳拝み
郷を詠む琉歌に 思い馳せる
朝夕墨習 立身を誓う
互に肝合わち 村を知らさ

二、嵐世をしぬでい 平和なていうていん
決して忘りるな 命どう宝

珊瑚踊る海 ユウナ歌う道
常盤継ぐ願え 弥勒世界報

結、松並木誇るいにしえの恩納
潟原の夕日 先の目当てい

作詞…宮沢和史 作曲…佐渡山安信

赤間丘に立ち 恩納岳を拝み
故郷のことを詠んだ琉歌に
思いを巡らせてみよう

朝から夕方まで一生懸命勉強して
一人前の人間になることを誓う
級友たち皆で心をひとつにして
この村の素晴らしさを広く知らしめよう

沖縄戦を耐え抜き
今は平和な世の中になったが
命こそ最も大切なものであることを
決して忘れてはならない

珊瑚が生き活きと踊る海
ユウナが歌う校舎へと続く道
五穀豊穡の平和な世の中が
永遠に続いていくことを願う

かつて恩納村は立派な松並木を誇ったが
屋嘉田潟原に沈みゆく夕陽は私たちが進むべき
未来を指し示しているようだ



作詞、作曲者プロフィール

【作詞者】宮沢 和史 氏 (右)

1966年山梨県甲府市生まれ。THE BOOMのボーカリストとして1989年にデビュー。代表曲に『鳥唄』、『風になりたい』などがある。

作家としても、喜納昌吉、夏川りみ、石川さゆり、坂本冬美、小泉今日子、MISIA、岡田准一 (V6)、KinKi Kidsなど、多くのミュージシャンに詞、曲を提供。

【作曲者】佐渡山 安信 氏 (左)

1948年、国頭郡恩納村安富祖生まれ。尚美音楽学院教育科卒業。

中城小学校を振り出しに7校を勤務し、中城小で定年退職。現在、中城村社会教育委員。中城ジュニアオーケストラ団長・指揮者。

下記より、校歌の視聴ができます。
中学校総合推進室HP : <http://tougou-onna.strikingly.com>

